

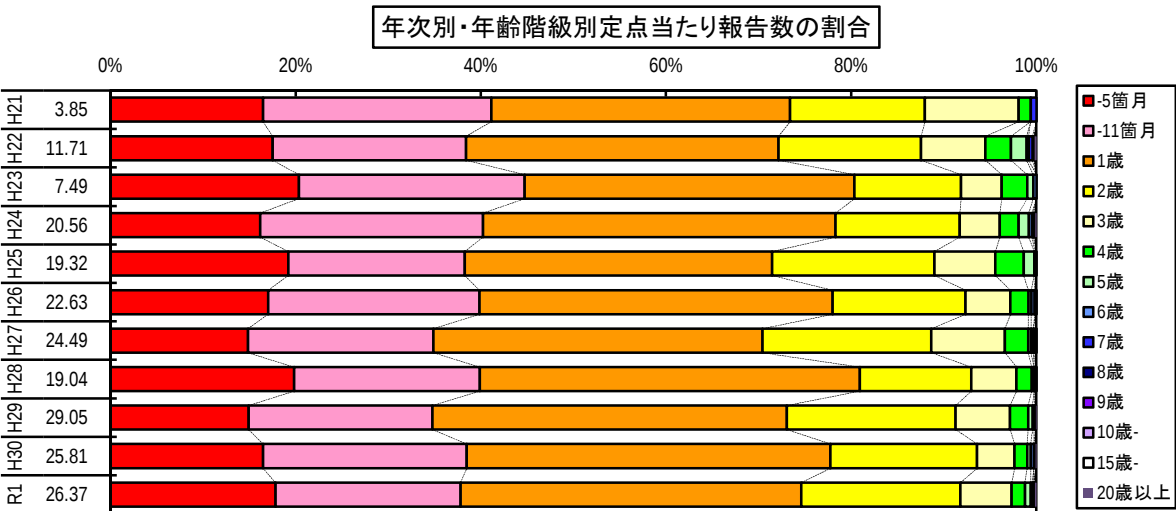
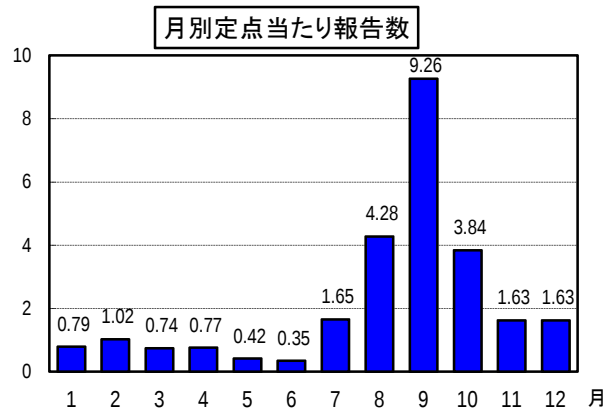
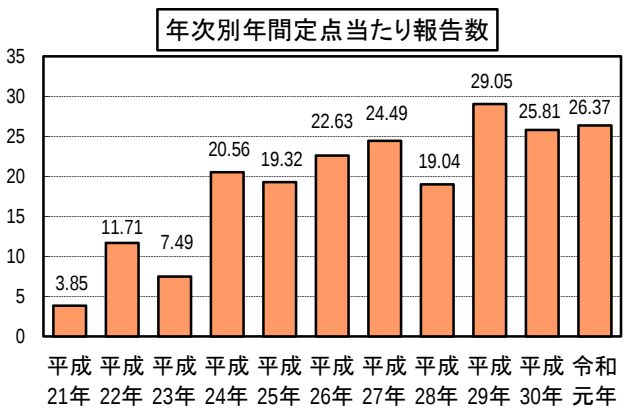
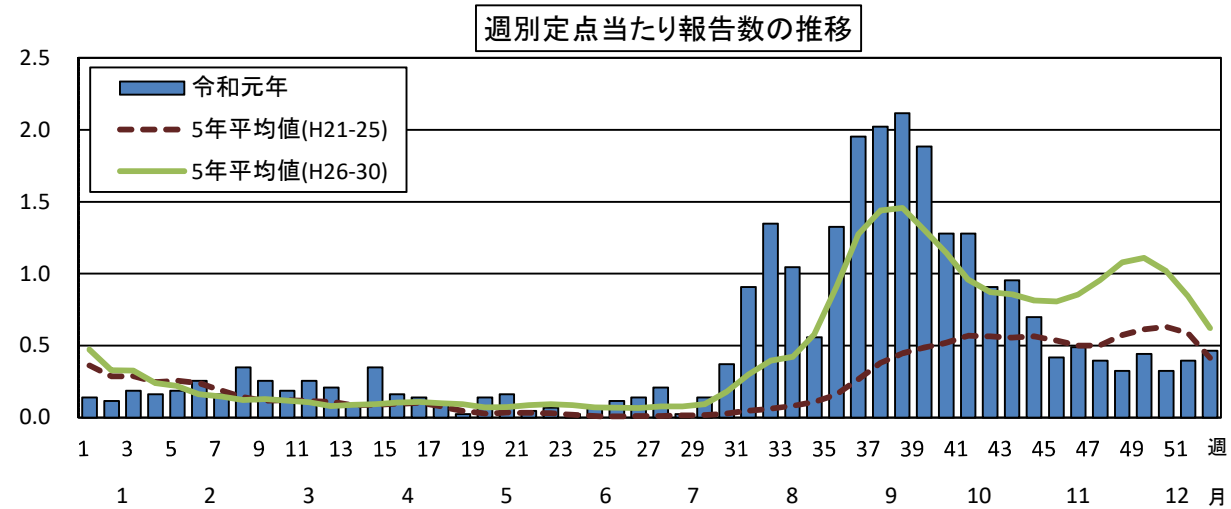
イ 小児科定点

(ア) RSウイルス感染症

令和元年は年間報告数1,134例、年間定点当たり報告数26.37であり、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比は1.09、前年比は1.02であった。過去10年間の年間定点当たり報告数では、平成29年に次いで多かった。平成24年以降、増加傾向が続いている。

月別定点当たり報告数では9月(9.26)が特に多く、次いで8月(4.28)、10月(3.84)が多かった。

年齢階級別で比較すると、1歳(36.8%)が最も多く、次いで6箇月～11箇月(20.0%)、0箇月～5箇月(17.8%)、2歳(17.2%)、の順となり、2歳以下が全体の91.8%を占めた。



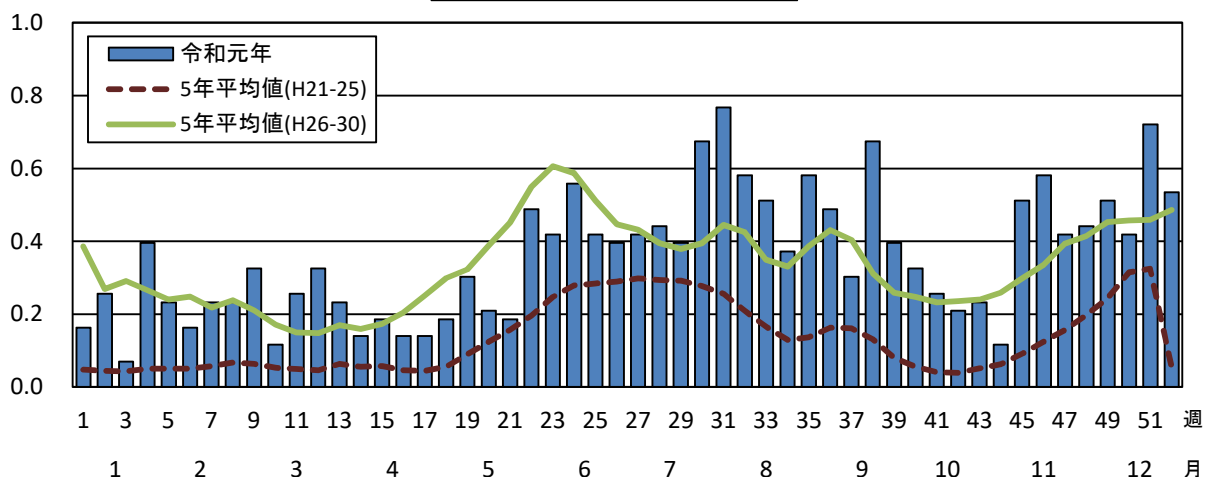
(イ) 咽頭結膜熱

令和元年は年間報告数802例、年間定点当たり報告数18.65、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.08、前年比1.63であった。

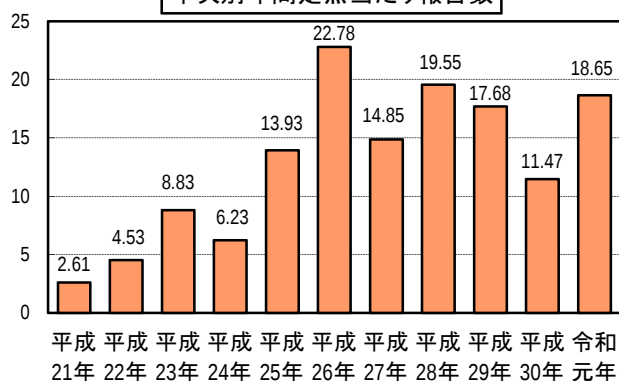
月別定点当たり報告数では、7月(2.70)、9月及び12月(ともに2.19)が多かった。

年齢階級別では、1歳(24.2%)が最も多く、次いで2歳(18.6%)、3歳(16.0%)の順となり、1～3歳が全体の58.8%を占めた。

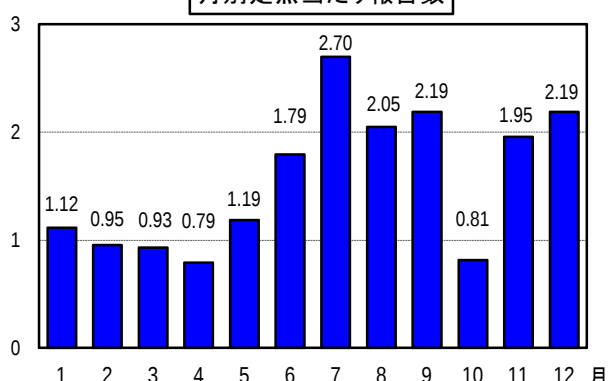
週別定点当たり報告数の推移



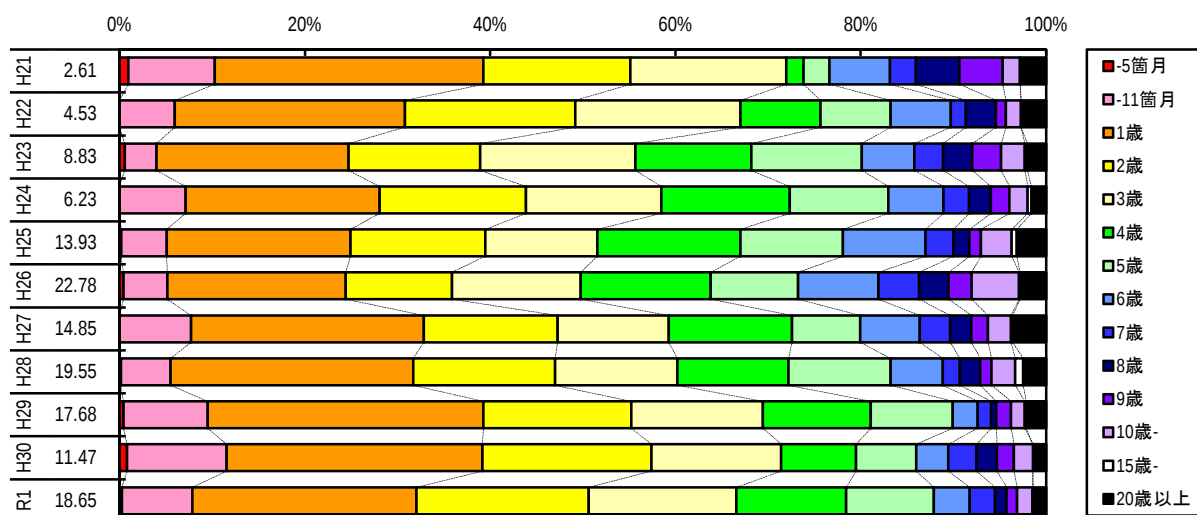
年次別年間定点当たり報告数

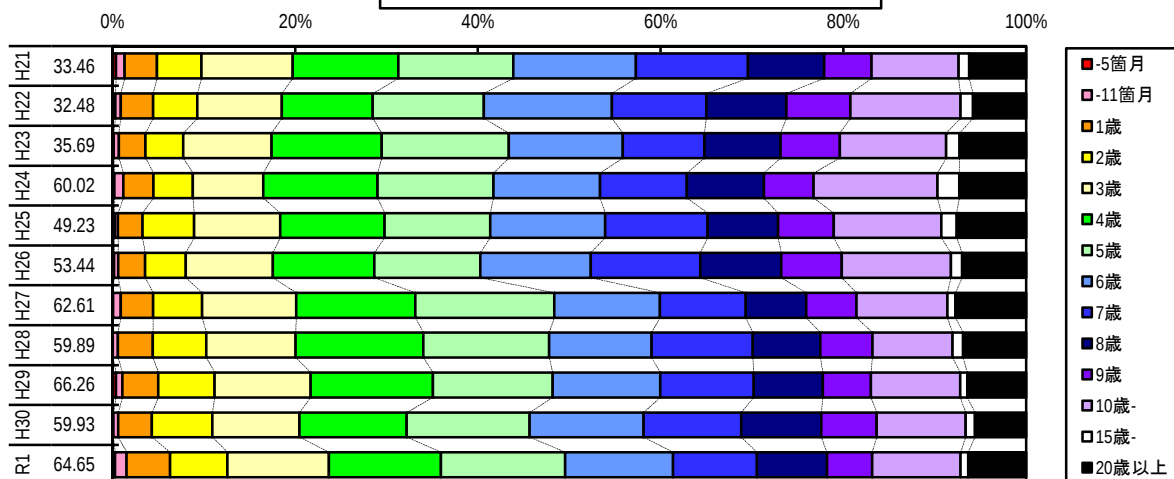


月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合





令和元年は年間報告数10,883例、年間定点当たり報告数253.09、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.81、前年比0.89であった。

月別定点当たり報告数では4月(36.91), 1月(34.23), 5月(26.40)の順に多かった。

年齢階級別では、1歳(15.0%)が最も多く、次いで2歳(12.3%)、3歳(11.3%)、4歳(9.2%)の順となり、1～4歳で全体の47.8%を占めた。

Figure 1: Monthly precipitation in Tokyo for Reiwa Year 1. The chart displays monthly precipitation (blue bars), the 5-year average (red dashed line, H21-H25), and the 5-year average (green solid line, H26-H30). The x-axis shows months (1 to 12) and the y-axis shows precipitation in mm (0.0 to 12.0).

Month	Monthly Precipitation (mm)	5-year Average (H21-H25) (mm)	5-year Average (H26-H30) (mm)
1	3.0	7.0	6.0
2	8.8	6.5	5.5
3	8.5	7.8	6.5
4	7.2	7.8	6.5
5	6.5	7.5	6.5
6	5.0	7.2	6.0
7	6.0	7.2	5.5
8	5.5	7.2	5.5
9	5.5	7.2	5.5
10	5.5	7.2	5.5
11	5.5	7.2	5.5
12	5.5	7.2	5.5
13	5.5	7.2	5.5
14	5.5	7.2	5.5
15	5.5	7.2	5.5
16	5.5	7.2	5.5
17	5.5	7.2	5.5
18	5.5	7.2	5.5
19	5.5	7.2	5.5
20	5.5	7.2	5.5
21	5.5	7.2	5.5
22	5.5	7.2	5.5
23	5.5	7.2	5.5
24	5.5	7.2	5.5
25	5.5	7.2	5.5
26	5.5	7.2	5.5
27	5.5	7.2	5.5
28	5.5	7.2	5.5
29	5.5	7.2	5.5
30	5.5	7.2	5.5
31	5.5	7.2	5.5
32	5.5	7.2	5.5
33	5.5	7.2	5.5
34	5.5	7.2	5.5
35	5.5	7.2	5.5
36	5.5	7.2	5.5
37	5.5	7.2	5.5
38	5.5	7.2	5.5
39	5.5	7.2	5.5
40	5.5	7.2	5.5
41	5.5	7.2	5.5
42	5.5	7.2	5.5
43	5.5	7.2	5.5
44	5.5	7.2	5.5
45	5.5	7.2	5.5
46	5.5	7.2	5.5
47	5.5	7.2	5.5
48	5.5	7.2	5.5
49	5.5	7.2	5.5
50	5.5	7.2	5.5
51	5.5	7.2	5.5
52	5.5	7.2	5.5

中央地方共同事業費の概算額

年度	概算額 (億円)
平成21年	240.29
平成22年	324.75
平成23年	257.45
平成24年	353.52
平成25年	256.34
平成26年	333.73
平成27年	288.95
平成28年	365.18
平成29年	290.82
平成30年	283.49
令和元年	253.09

Month	Number of Reports
1	34.23
2	23.23
3	24.93
4	36.91
5	26.40
6	20.37
7	17.00
8	9.40
9	13.51
10	10.23
11	12.00
12	24.88

		0%	20%	40%	60%	80%	100%
H21	240.29						
H22	324.75						
H23	257.45						
H24	353.52						
H25	256.34						
H26	333.73						
H27	288.95						
H28	365.18						
H29	290.82						
H30	283.49						
R1	253.09						

(オ) 水痘

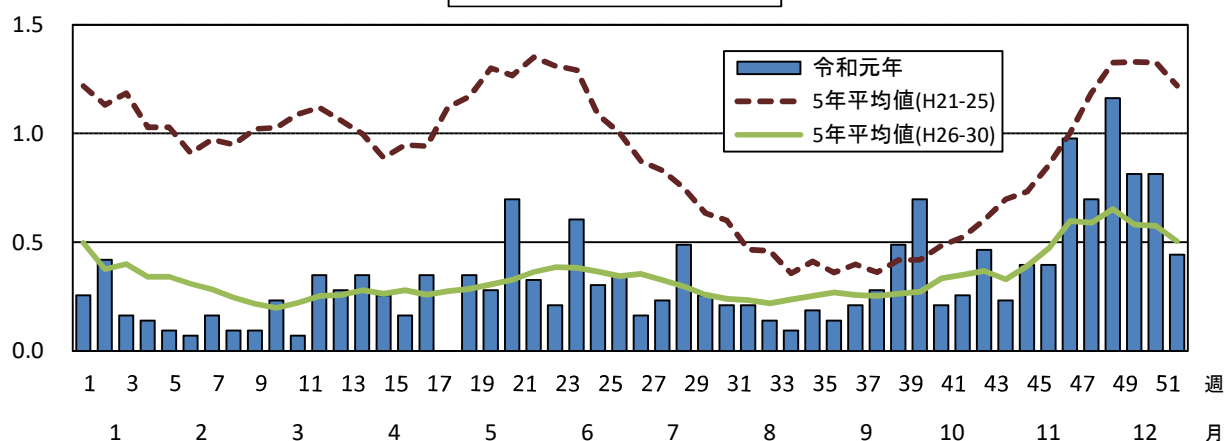
令和元年は年間報告数744例、年間定点当たり報告数17.30、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.96、前年比1.43であった。

年間定点当たり報告数は平成25年から連続して減少していたが、本年も比較的低い水準を維持している。

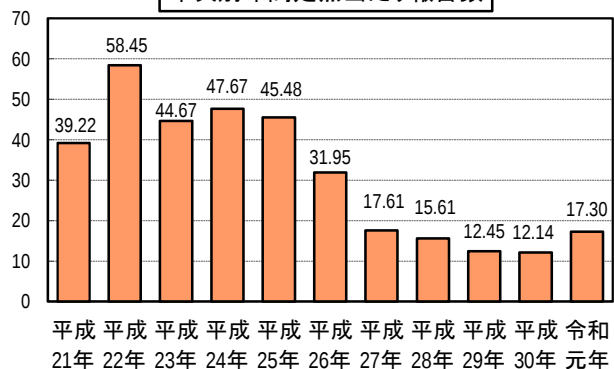
月別定点当たり報告数では、12月(3.23)、11月(2.47)、9月(1.81)の順に多かった。

年齢階級別では、6歳(12.9%)、5歳(12.2%)、4歳(12.0%)、8歳(11.3%)の順に多く、4～8歳が全体の59.4%を占め、3歳以下の割合が年々減少している。

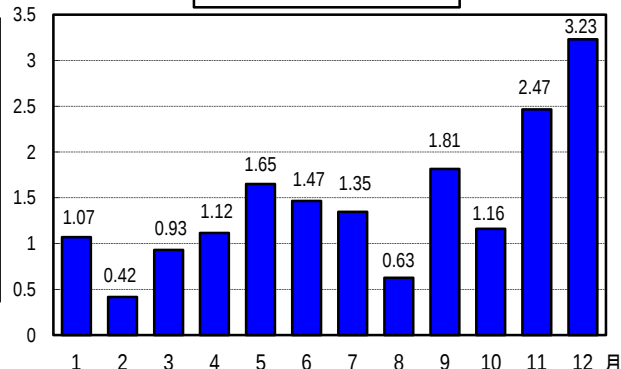
週別定点当たり報告数の推移



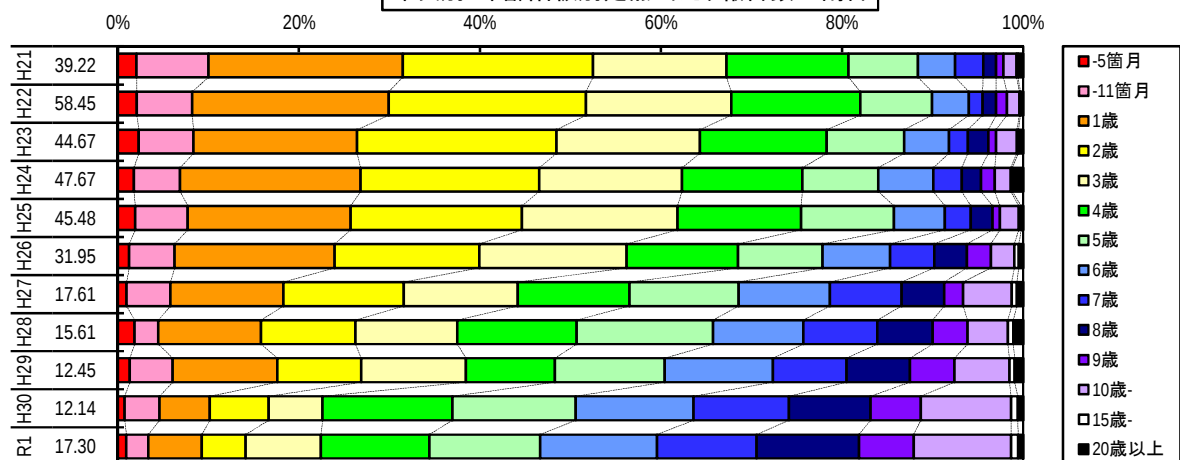
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



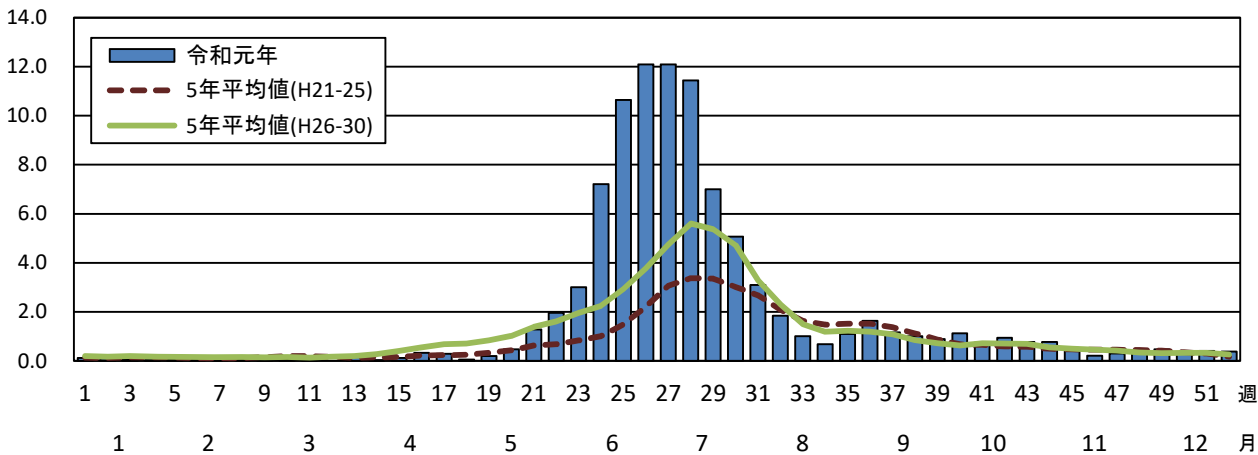
(カ) 手足口病

令和元年は年間報告数が4,039例、年間定点当たり報告数は93.93、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比1.56、前年比2.96であった。

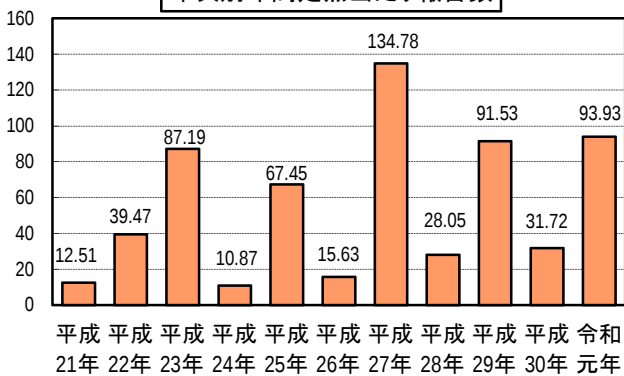
過去10年間の年間定点当たり報告数をみると、ほぼ隔年で増減を繰り返しており、本年は平成27年に次いで2番目に多い年となった。

月別定点当たり報告数は、7月(38.70)、6月(32.95)で特に多く、1月～4月の報告数は少なかった。
年齢階級別では、1歳(38.2%)が最も多く、次いで2歳(21.2%)、6箇月～11箇月(11.8%)、3歳(11.6%)の順となり、6箇月～3歳が全体の82.8%を占めた。

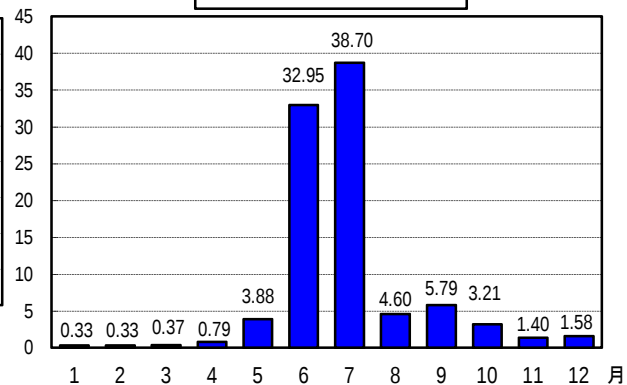
週別定点当たり報告数の推移



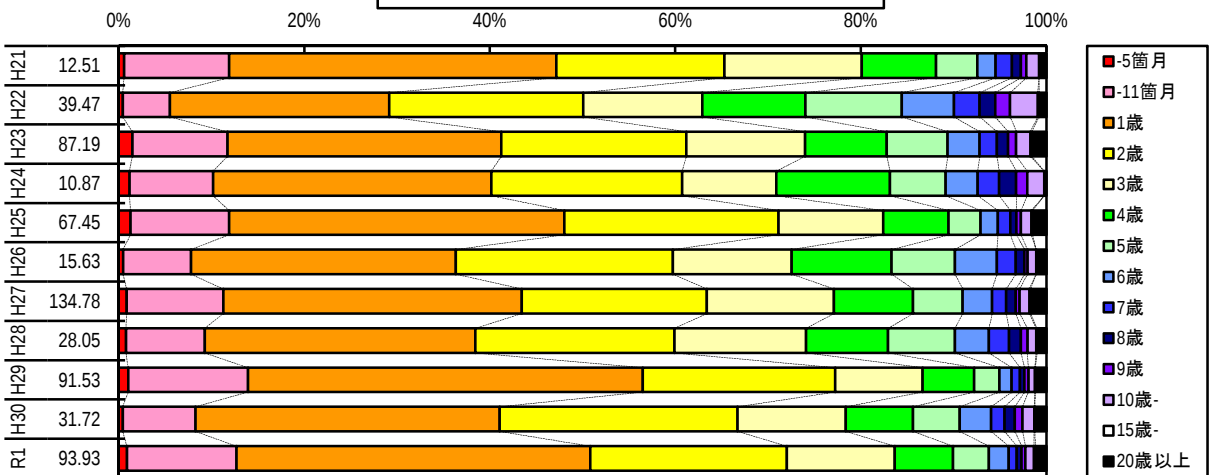
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



(キ) 伝染性紅斑

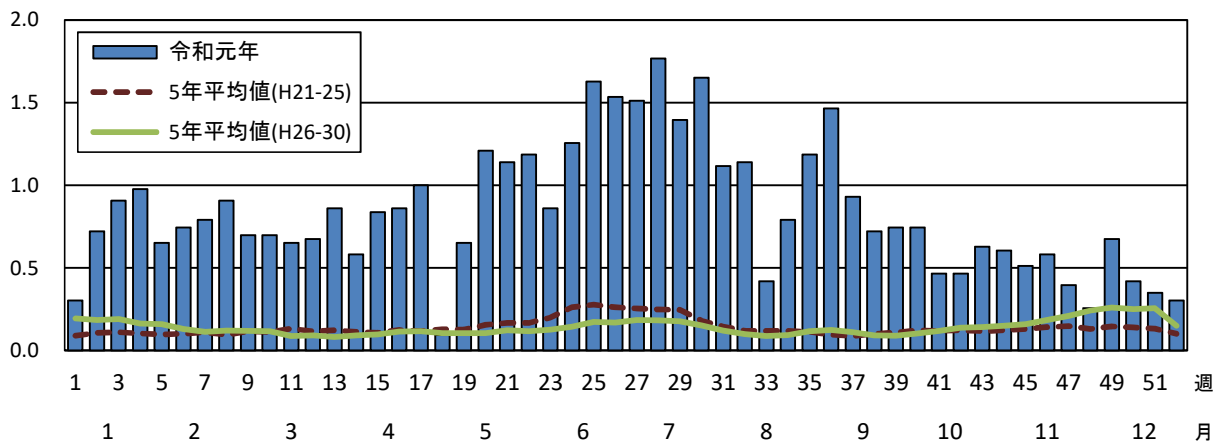
令和元年は年間報告数1,877例、年間定点当たり報告数43.65、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比5.86、前年比9.63であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数をみると、2年にわたる流行を3年おきに繰り返す傾向があり、本年は過去10年で最多であった平成27年に約2.5倍の差をつけて最多となった。

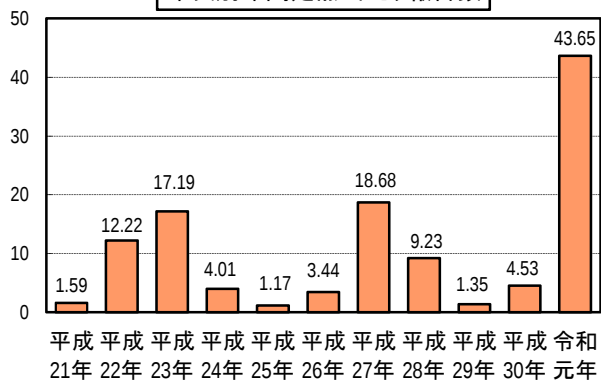
月別定点当たり報告数では、7月(7.44)、6月(5.28)、9月(4.60)の順に多かった。

年齢階級別では、4歳(18.1%)、5歳(16.6%)、3歳(13.7%)の順に多く、3歳～6歳が全体の61.7%を占めた。

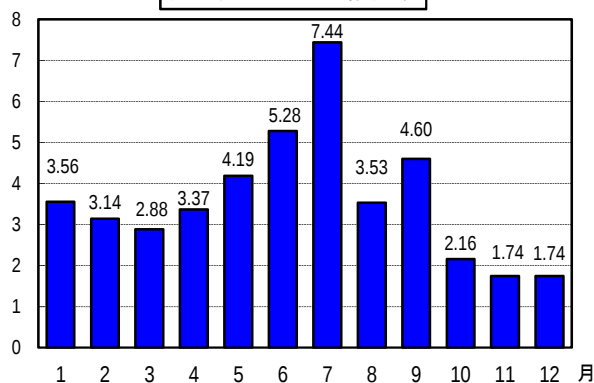
週別定点当たり報告数の推移



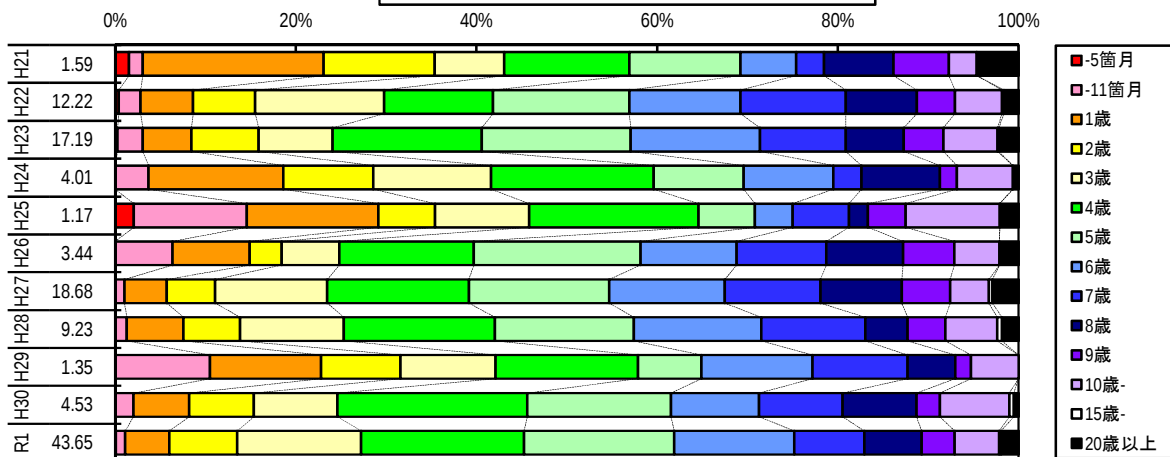
年次別年間定点当たり報告数



月別定点当たり報告数



年次別・年齢階級別定点当たり報告数の割合



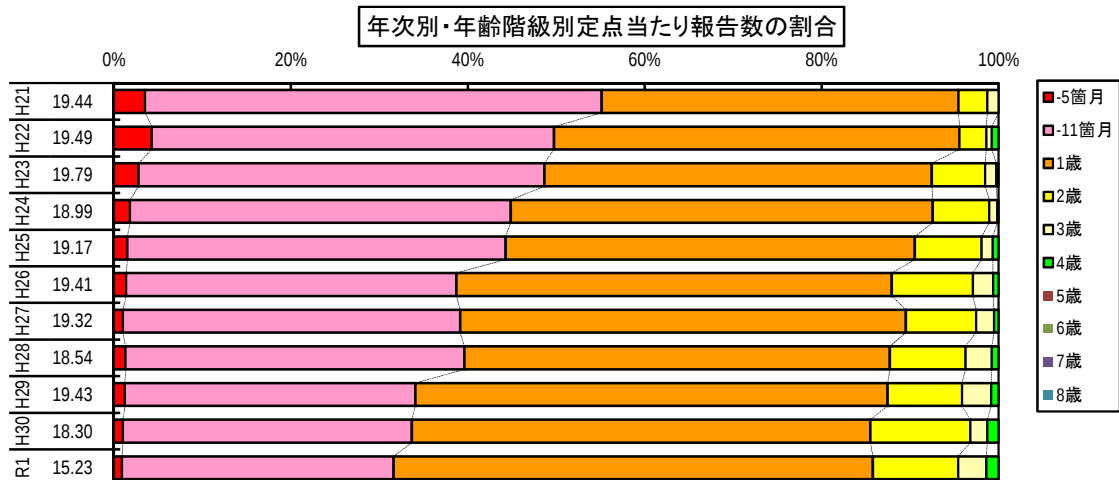
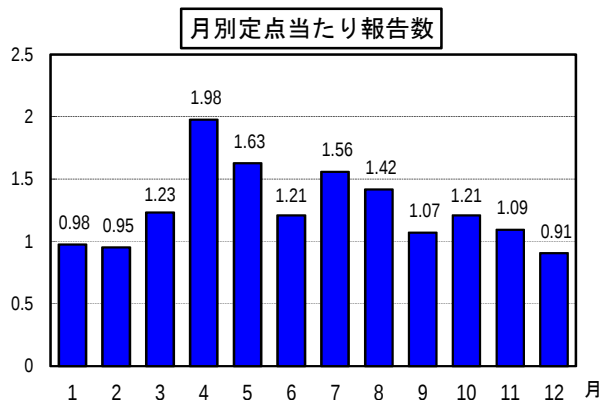
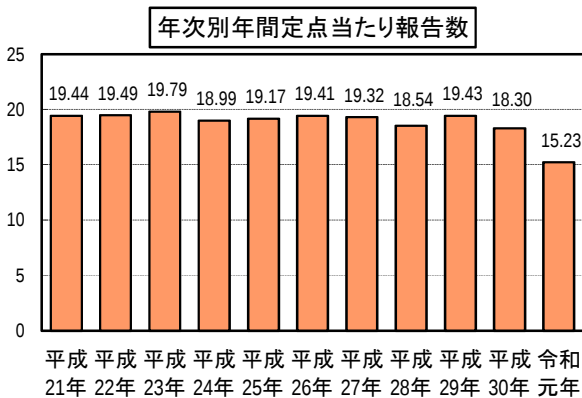
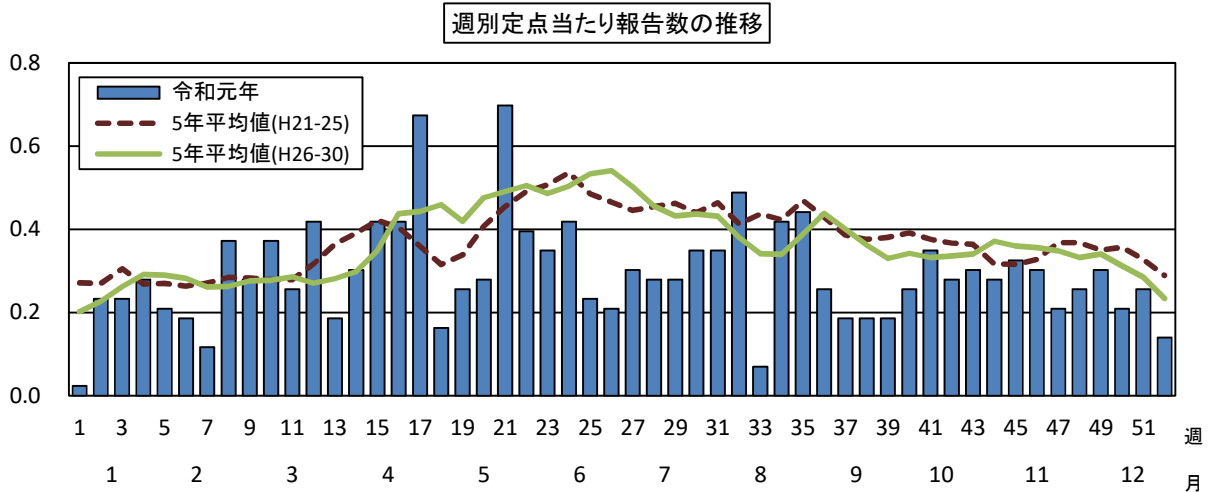
(ク) 突発性発しん

令和元年は年間報告数655例、年間定点当たり報告数15.23、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.80、前年比0.83であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数は全ての年次でほとんど変化がなかったが、本年は最も少なかった。

月別定点当たり報告数では、4月(1.98)が最も多く、次いで5月(1.63)、7月(1.56)の順に多かった。

年齢階級別では、1歳(54.2%)が半数以上を占め、次いで6箇月～11箇月(30.7%)が多く、1歳以下が全体の85.8%を占めた。



(ケ) ヘルパンギーナ

令和元年は年間報告数809例、年間定点当たり報告数18.81、年間定点当たり報告数の過去5年平均値との比0.79、前年比0.85であった。

過去10年間の年間定点当たり報告数と比べると3番目に少なく、中央値(22.80)をやや下回った。

月別定点当たり報告数では、7月(5.98), 6月(4.60), 9月(3.09)の順に多かった。

年齢階級別で比べると、1歳(28.8%)が最も多く、次いで2歳(22.6%)、3歳(15.5%)、6箇月～11箇月(11.2%)の順で、6箇月～3歳が全体の78.1%を占めた。

